

ISSN 0287-6000

龍谷大學論集

——第 499 號——

令和 5 年 3 月

龍 谷 學 會

龍谷大學論集

第四九九號
令和五年三月

目次 龍谷學會編

専修念仏彈圧と親鸞……………	斎藤 信行…	一
—被彈圧の必然性と彈圧者への念仏—		
七里恒順門下の異才・奇才たち……………	中西直樹…	三
彙報……………		五
編集後記……………		
英文要旨……………		1
狐狸の崇りと真宗信仰……………	那須英勝…	8
—棲浄斎誓鎧師(1753-1829)『解魔弁』考—		
大学生の心理実習に対する学びと期待……………	廣橋 諒一…	19
「長岡京大内裏附近遺物分布図」と長岡宮の初期復元研究……………	國下多美樹…	46
近代に見られる「四つ仮名」の音声分析……………	内田智子…	67
三人称の「僕」…直示投射と脱文法化の観点から……………	塩田英子…	84
幼児教育における「センス・オブ・ワンダー」(2)……………	福田豊子…	108
—『枕草子』にみられる小さきものへの慈愛を手がかりに—		

THE
RYUKOKUDAIGAKU RONSHU
THE JOURNAL
OF
RYUKOKU UNIVERSITY

No. 499

Mar. 2023

CONTENTS

- The oppression to Senju-Nenbutsu and Shinran: The Inevitability of
Being Oppressed and Nenbutsu for Oppressors.....**Shingyo SAITO**... 1
- Talents and prodigies under Gōjun Shichiri.....**Naoki NAKANISHI**... 31
- Curing Fox and Badger Possession in Shinshū Practice: A Study of
the *Gemaben* (How to Liberate Evil Spirits) by Seijōsai Seigai
(1753-1829).....**Eisho NASU**... 8
- Expectations and Learning of University Students for
Psychological Practicum.....**Ryoichi HIROHASHI**... 19
- “Distribution Map of Artifacts Near the Daidairi of Nagaoka-kyo
Capital” and Early Restoration Research of Nagaoka Palace
.....**Tamiki KUNISHITA**... 46
- Phonetic Analysis of “Yotsu-gana” in Modern Times
.....**Tomoko UCHIDA**... 67
- Degrammaticalization of the Japanese First-Person Pronoun *Boku*:
From Person Deixis to Common Noun.....**Eiko SHIOTA**... 84
- “A Sense of Wonder” in Early Childhood Education (2) : Love for
Little Things in “Makura no Soshi” as a Clue.....**Toyoko FUKUDA**...108
-
-

Published by
RYUKOKU GAKKAI
The Research Association of Ryukoku University
Kyōto, Japan

彙報

二〇二一年度大学院（文学研究科）

修士課程修士論文題目

○真宗学専攻

- 一、九州真宗の源流
 - ― 談義僧天然の研究を中心に―
- 一、『往生要集』の研究
 - ― 鹿島門徒の研究
- 一、『信海問書』を中心に―
 - ― 蓮如教学における仏凡一体論の研究
- 一、行信二法の関係
 - ― 明恵への応答を踏まえて―
- 一、曇鸞浄土教の成立背景について
 - ― 菩提流支周辺の教学の検討を中心として―
- 一、親鸞における『阿闍世王物語』引用に関する一考察
 - ― 真仏弟子としての阿闍世―
- 一、『獲得名号自然法爾』についての一考察
 - ― 浄土教における聞名思想の展開
 - ― 親鸞の聞名思想の受容とその背景―

井上 順祐
高田 夏美
栗田 哲哉
安満 秀法
石山 恵然
尾寺 遊賢
佐藤 智暁
長沢 祐耀
森田 香月

○仏教学専攻

- 一、浄土真宗における「人間の救い」と「物語」の関係性と意義について
 - ― ナラティヴ・アプローチを通して―

和田 真実

三性説解釈

- 一、平安中期における叡山浄土教の研究
 - ― 良源・千観・禅瑜を中心として―

浅井 教祥

○哲学専攻

- 一、純粹直観としてのカントの空間論の起源
 - ― いかにしてカントは純粹直観へと辿り着いたのか―
- 一、ワイトゲンシュタインにおける「唯一の論理」の行方
 - ― 臨床心理学専攻

池田 拓海
米田 雄哉

○臨床心理学専攻

- 一、円環的質問に関する研究
 - ― クライエントの受け取り方からの再検討―
- 一、新型コロナウイルスに対して大学生によるストレス
 - ― コーピングについての一研究
 - ― 大学生へのインタビュー調査を通して―
- 一、コロナ禍における青年期の友人関係の形成と維持

今峰 大樹
栗田 元樹

— 縦断的インタビューを通して — 齋藤 菜生

一、保育教諭が想定する望ましいとされる親の育児態度
についてのインタビュー調査

— 時代の変化に即した子育てについての

一考察 — 澤田 真史

一、精神疾患の親を持つ子どもに対する、日本での適用
可能な介入の検討

— ナラティブレビューを用いて — 志賀 由梨

一、大学生の適応に関する研究

— アダルトチルドレンの観点から — 高比良徹也

一、自己肯定感への自立・ASD傾向の影響

— 大学生への質問紙調査を通して — 谷田 航基

一、中途身体障害者の障害受容における心理的プロセス
の研究 中城 玲菜

一、対人場面における Highly Sensitive Person の過敏性
について — プロスタディ・バウムテストによる検討 —
早川 佳奈

一、本人が来談しない面接

— ケース全体を見立てるために — 本田 昂陽

一、虐待的養育環境で育った子どもの特性についての

一考察 水口ゆかり

一、ひきこもり支援における家族支援について

森田 耕司

一、「学校現場と適応指導教室における不登校支援につ

いての一考察」 藪辻 裕美

一、産業領域における心理職に求められるもの

— 労働者の視点から — 山岸 葵

一、被虐待児とのプレイセラピー場面におけるセラピス
トの感情コンピテンス発達過程の探索的研究

— セラピストの感情体験に着目して —

横山シオン

一、発達障害のきょうだいを持つ青年期後期の抱える
諸問題と要望

— 回想インタビューによる質的研究 —

渡邊絢宥子

○日本史学専攻

一、前期鎌倉幕府における官位叙任

荒木洋太郎

一、豊臣政権における前田利家・利長の権力構造

北村 太智

一、桃山文化期の文化財建造物に用いられた金箔に
関する保存修復学的研究 末次 優衣

一、近世被差別民の研究

— 紀州のオンボウを中心に — 古川 周平

一、朝倉氏による越前国支配の特質

宮崎 緑

一、吉野宮に関する一考察

村田 和崇

一、室町幕府の分裂と地方

— 足利直冬の動向を中心に — 森本 太郎

一、明治期芸能の「統制」と「国民形成」
— 近代化過程における歌舞伎を中心に —

一、恭仁宮の軒瓦とその展開
山本 未久

一、南山城地域を中心に—
山本 瑞姫

一、近代における美術工芸品の模造事業について
—目的と背景を中心に—
吉田 晴香

一、平安時代官人の考察
—官人俸禄を中心に—
元治 豊光

○東洋史学専攻
一、漢代辺境施設における吏民の管理方法について
—候官と関所を中心に—
廣瀬眞彌子

一、チンギス・カンのモンゴル高原統一初期における
部族間戦争の意義
中山 匠

一、港市国家マラッカとその外交
—対明関係を中心として—
仁科 周弥

○日本語日本文学専攻
一、前期京極派の詠歌表現
—『乾元二年五月四日歌合』を中心に—
久瀬 隼佑

一、観光情報を扱った出版物による都市のイメージ
—づくり—
江崎 淳也

一、『幡随意上人諸国行化伝』における説話と思想
長谷川真佑

二〇二一年度大学院（文学研究科）

博士課程博士論文題目

○文学

一、近世前中期真宗行信論の研究

一、真宗倫理の研究

一、曇鸞浄土教における修道論の研究

一、道綽浄土教における念仏思想と実践教化

一、日本仏教と英語翻訳
—真宗関連のテキストを中心に—

一、湛睿教学の研究

○臨床心理学

一、子どものレジリエンス育成に関する臨床心理学的
研究
梅野 智美

一、システムズアプローチにおけるジョイニング
—ジョイニングの組織への応用の可能性—
田中 智之

一、生徒の問題行動に対する教員とスクールカウンセ
ラーの協働に関する臨床心理学的研究
浅野 浩子

一、近世前中期真宗行信論の研究
伊藤 顕慈

一、真宗倫理の研究
釋 大智

一、曇鸞浄土教における修道論の研究
遠山 信証

一、道綽浄土教における念仏思想と実践教化
福井 順忍

一、日本仏教と英語翻訳
—真宗関連のテキストを中心に—
高 宣也

一、湛睿教学の研究
高田 悠

一、子どものレジリエンス育成に関する臨床心理学的
研究
梅野 智美

一、システムズアプローチにおけるジョイニング
—ジョイニングの組織への応用の可能性—
田中 智之

一、生徒の問題行動に対する教員とスクールカウンセ
ラーの協働に関する臨床心理学的研究
浅野 浩子

二〇二一年度文学部

卒業論文題目（三月卒業）

○真宗学科

一、日本仏教の歴史から見た親鸞に対する認識と

現代社会への課題

一、蓮如の伝道活動

一、法然と親鸞の念仏と信心

一、子育て支援につながる浄土真宗のビハラー活動

一、終活のブームとその背景について

— 終活についての一考察 —

一、浄土真宗の在り方に関する研究

— 現在と未来 —

一、現代における真宗倫理の研究

一、親鸞の太子信仰

— 『皇太子聖徳奉讃』を中心に —

一、仏教・真宗における譬喩のチカラ

— 二河白道を中心に —

一、現代医療における仏教の役割

一、ビハラーは人生の苦をどのように和らげることができるのか

一、本願力回向についての一考察

— 特に還相回向について —

— 現代医療における仏教の役割

— ビハラーは人生の苦をどのように和らげることができるのか

— 本願力回向についての一考察

— 特に還相回向について —

一、アウグスティヌスと親鸞の回心

一、妙好人

— 日本と海外の比較 —

一、法然門下の往生業について

一、浄土真宗と差別

— 過去、現在問わず蔓延る差別との向き合い方 —

— 過去、現在問わず蔓延る差別との向き合い方 —

一、浄土真宗と科学

— 現代科学者たちに観る浄土観 —

一、仏教と医療の協働の可能性に関する考察

— 親鸞の救済観と共に —

一、多様化する現代社会における仏教・浄土真宗の在り方

一、恵信尼の生涯

一、善道、親鸞の六字釈について

一、女人往生の存在について

— 蓮如上人の女性観 —

一、浄土真宗の本地垂迹説観

一、自死問題とその取り組みに関する研究

一、死に対するケア

一、親鸞聖人の女性観

一、ビハラー活動とその未来

— 善導・法然・親鸞・存覚を中心に —

— 善導・法然・親鸞・存覚を中心に —

井原 郁也

今西 一晟

巖 智彰

上田 爽一郎

植田 亮平

宇佐美智瑞

宇佐美仁茂

内田 雅之

梅高 智真

浦川 観大

江頭 秀彦

大内 啓暉

大西 喬紀

大平 七海

大町 悠斗

岡上明日香

井上 優広

一、真宗における動物の死と往生

岡田 夢真

一、仏教と医療の連携についての一考察

北野 燎

一、『観無量寿経』の意義と現代

岡本 道哉

一、浄土真宗における念仏思想

絹谷 大樹

一、日本と海外の宗教性と浄土真宗

小川 星哉

一、浄土真宗の視点から読み解く『鉄腕アトム』

木下 成慈

一、親鸞の人間観と救いの在り方について

小川 大輝

一、親鸞聖人の伝道姿勢

桐溪 龍真

一、宗教と育児の精神的な悩み

荻野 笑那

一、浄土和讃に焦点を置いて

久下 昇汰

一、浄土真宗における善知識の位置付け

小野 千輝

一、現代社会における仏教としての浄土真宗とは

熊本 彩花

一、親鸞の教義とよるこび

春日 弘輝

一、女人往生について

倉本 翔熙

一、寺と神社の存在意義

勝永 環

一、浄土真宗における六字釈の研究

桑原 悠真

一、現代日本人の宗教観

勝水 崇史

一、浄土思想の人間観

高坂 一真

一、地域包括ケアにおける宗教の役割

加藤 颯人

一、蓮如の思想への理解

河野 賢信

一、宗教、社会福祉・医療の観点を踏まえて

金尾 正映

一、当時と現在との違い

兒玉 明子

一、浄土真宗におけるこれからの寺院活動

神根 真生

一、真宗における共生

小林 由悟

一、近代における仏教者の教育観

亀高 聖也

一、浄土真宗における奇瑞について

近藤あかね

一、浄土真宗における他力の意義

川島 実菜

一、真宗寺院の経営

近藤 生信

一、中村久子から学ぶ自己肯定感と浄土真宗

川田 遥子

一、日本のお寺改革

寺院に必要とされているもの

一、自己と他者の共生

河原 知音

一、鈴木大拙の一考察

坂田 麻友

一、三業惑乱期における学林能化の様相

川原 梨花

一、親鸞の教えとビハーラ活動

北野 航平

一、死への苦しみに対する僧侶の役割

岸田 悠暉

一、浄土真宗を中心にして

北川 拓哉

一、親鸞の姿勢を通じて

北川 拓哉

一、龍谷大学の歴史について

北野 航平

一、超高齢化社会における仏教の役割

北野 航平

一、浄土真宗を中心にして

北野 航平

一、「宗教による暴力と危険性」

北野 航平

一、浄土真宗を中心にして

北野 航平

—福祉・介護に注目して—

一、蓮如教学の研究

坂本 純梓
崎本 正教

一、八番問答より斟酌した曇鸞の往生観

—五念門と十念の検討—

佐藤舞里萌

一、仏教音楽の効果

式庄 誓我

一、親鸞における回向とは何か

重松 光

一、お寺と現代社会

—コンビニ二より多いと言われるお寺の取り組
み—
鳥谷穂乃香

一、宗教と心理学の比較

清水谷 亮

—宗教と心理学から見る人間の思想—

一、親鸞聖人の三経解釈

正林さやか

—正信念仏偈を中心に—

一、浄土真宗の戦時教学

素木 康宏

—真俗二諦を中心に—

一、『歎異抄』における親鸞観

城 拓実

一、七祖から親鸞までの念仏理解の変遷

菅沼奈津美

一、宗教における宗教美術の影響と役割

菅原 祐円

一、浄土に往生した者の様相について

杉下 皓國

一、現代日本の宗教観と伝道

杉山 智広

一、真宗出雲路派教学の研究

泰圓澄 智

—宗制を中心に—

一、法然と親鸞の念仏観

高島 大寛

一、ビハラの現代における役割

高山 楓

一、浄土真宗における自己受容

—生きやすい人生を歩むために—

田中 実法

一、浄土真宗とソーシャルキャピタル

田中 僚

一、浄土真宗とマイノリティ

田中 蓮也

一、悪人正機説から学ぶ親鸞の人間観

棚瀬 真爾

一、現代社会における仏教と医療

谷本阿久鈴

一、現代におけるビハラの必要性

玉田 大介

一、女人往生の研究

—法然・親鸞・存覚・蓮如を通して—

田村 穂香

一、自死念慮者に対する浄土真宗の関わり方

—ビハラを用いた自死対策—

茶谷 勝臣

一、蓮如上人における真宗教団の発展

—その手法と現代への応用—

司田 海良

一、真宗儀礼における改悔批判

月村 怜亜

一、一向宗について

堤 大輝

一、浄土真宗の伝道

—親鸞の自信教人信を根底として—

椿 唯信

一、覚如教学における『歎異抄』の影響とその背景

鳥喰 唯誓

一、浄土真宗における勤行の意義

中川 雄真

一、現代日本における日本人の宗教観と寺離れについて

—様々な視点から比較して—

中西 誠

一、個人化する葬儀の行方

中山 晃耀

一、寺離れを防ぐための伝道

永井 蓮

一、生死と仏教

一、死者との関わりを中心として

一、地獄の世界

一、三途の川を中心に

一、看護と仏教の連携に関する研究

一、一人の患者をチームで支えるために

一、浄土真宗本願寺派における称名念仏の意義

一、浄土真宗と臓器移植

一、現代日本の臓器移植の現状もふまえて

一、現代社会における宗教の役割

一、現代社会における浄土真宗の存在とは

一、臨床心理士と臨床宗教師

一、在宅ケアにおけるビハラ活動の重要性

一、親鸞の教えにおける民衆性の考察

一、親鸞の教えにおける民衆性の考察

一、浄土真宗における念仏について

一、真宗における幼児教育

一、日本における本地垂迹思想について

一、特に『諸神本懐集』を中心として

一、一遍上人の念仏信仰

一、『一遍聖絵』を中心として

一、仏教と武道

一、仏教の自然観

一、中国天台宗における解釈を中心に

一、草木成仏について

一、仏教における宇宙観について

一、阿毘達磨俱舍論を中心として

一、弘法大師空海の研究

一、聖徳太子の研究

一、明恵上人高弁の研究

一、仏教における動物理解

一、現代の動物倫理を視野に入れて

一、興正菩薩叡尊の研究

一、熊野比丘尼について

一、施薬院の起源と変遷

一、女人成仏思想について

一、良忠撰『看病用心鈔』の研究

一、「草木成仏」に至るまでの思想変遷の研究

一、行基の利生事業の研究

一、梵天勸請説話の研究

一、東大寺の研究

一、地獄における救済について

一、法然浄土教の研究

竹端 秀太

松野 皓太

浅野 尚徳

油井晋太郎

板場 成

市川 雄磨

伊藤 岳大

井上あすか

井上 舜也

井上 颯太

井上 日和

岩井 健太

岩波 郁

後 圭悟

卜部 正嗣

大谷 亮太

大西 宏和

大道 陸夫

岡 奈津妃

岡崎 夢

角谷 昌哉

角谷 昌哉

○仏教学科

- 一、なぜ富士山は日本の象徴とされるのか
- 一、奥野 泰成
- 一、栄西はなぜ戒律復興を目指したのか？
- 一、奥野 智貴
- 一、戒律観の検討を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、聖地の成立と表象化
- 一、尾立 和香
- 一、清水寺を例として――
- 一、越智 優誓
- 一、現代仏教における煙草の是非
- 一、越智 唯月
- 一、カースト制度における不可触民とアンペードカル
- 一、越智 亮太
- 一、落合 信敬
- 一、落合 信敬
- 一、桂川 真穂
- 一、桂川 真穂
- 一、愛欲について
- 一、加藤 咲花
- 一、加藤 実桜
- 一、『往生要集』について
- 一、鎌倉 広瑠
- 一、『スッタニパータ』
- 一、鎌倉 広瑠
- 一、第五章アジタ仙人の問い――
- 一、維摩会の南都寺院社会における位置付けと途絶
- 一、亀川 直哉
- 一、川西 政輝
- 一、菊田 優妃
- 一、菊田 優妃
- 一、五輪塔の研究
- 一、楠 一真
- 一、日本における現代青年文化に見られる仏教
- 一、黒川 薫望
- 一、サブカルチャーに着目して――
- 一、小林 晃啓
- 一、小林 史也
- 一、ラオスの仏教と歴史
- 一、小林 史也
- 一、仏教の煩惱論に学ぶ
- 一、奥野 泰成
- 一、宗教はなぜ戦争と関わるか
- 一、奥野 智貴
- 一、中世から近現代の事例を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、道昭を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、廃仏毀釈の研究
- 一、奥山 維風
- 一、仏教カウンセリングの研究
- 一、奥山 維風
- 一、その歴史と現在――
- 一、奥山 維風
- 一、施餓鬼の意義と施餓鬼会について
- 一、奥山 維風
- 一、仏教福祉の研究
- 一、奥山 維風
- 一、禪と茶道の研究
- 一、奥山 維風
- 一、仏教から考える脳死
- 一、奥山 維風
- 一、菩薩思想から見るジャータカ
- 一、奥山 維風
- 一、「兎本生」を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、仏教図像研究における機械学習利用の可能性
- 一、奥山 維風
- 一、仏教における「嫉妬」について
- 一、奥山 維風
- 一、初期禪宗の思想背景
- 一、奥山 維風
- 一、『楞伽経』と『二入四行論』の関係を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、英語辞典の語彙からみる仏教
- 一、奥山 維風
- 一、中論頌およびその註釈の研究
- 一、奥山 維風
- 一、清弁と月称を中心に――
- 一、奥山 維風
- 一、日本における地獄イメージの形成と流布
- 一、奥山 維風
- 一、地獄絵の絵解きによる民衆への広まり――
- 一、奥山 維風

一、恵心僧都源信の研究

田中 太智

一、仏教声明の研究

田中 瑞輝

一、諸律の葉榎度における秋時病

田原慎太郎

一、仏教と近代日本文学における自我

圓 妃菜子

一、アングリマールが仏弟子になった理由

徳重 真純

一、不可触民制とアンベードカル

徳永 柚樹

一、女性はずね不浄とされたのか

鳥山 貴弘

—経血をめぐるイメージの変遷に注目して—

一、アーユルヴェーダの研究

中村 紗菜

一、仏像と現代の文化

糊谷 晟

一、涅槃についての考察

平山 千波

—釈尊の教えようとしたこと—

一、稲荷信仰の展開について

廣井 亜美

一、『平家物語』における仏教思想の研究

藤田 拓斗

一、インド哲学による釈尊の思想形成

藤森いずみ

一、『華嚴経』「入法界品」の研究

船古 裕太

一、律宗における行基信仰の形成と展開

船戸 ゆら

—行基図を中心に—

一、日本に影響を及ぼした仏教医学

古川 七海

一、福田思想に関する一考察

前野 智樹

一、仏教における葬儀の研究

榊田 祐介

一、一角仙人の愚かさについて

増山 周洋

—パリ『ジャーナカ』を中心に—

一、仏教と武士の関わりについて

町田 唯真

一、平安仏教と千観

松倉 弘明

一、仏教によるメンタルヘルスと唯識の考え

松谷 光星

一、法然上人の研究

松本 光平

一、廃仏毀釈の研究

的井 風花

一、『唯識二十論』における外界非実在の論証について

宮崎 輝

一、空思想の研究

宮崎 康太

一、薬師信仰の研究

村本 一貴

一、疫病と祇園祭

森口 勇希

一、『日本霊異記』における鬼の研究

森本 成也

—上巻第三縁を中心に—

一、仏教と鬼

山浦 千里

一、聖徳太子信仰の研究

山下 実玲

一、大伝法院が根来の地へ移るまでの変遷

山下 隆亮

一、廃仏毀釈についての再検討

山田 望月

一、悪人について

山本 成海

一、自死問題に対する宗教者の役割

吉田 遙樹

一、『維摩経』の研究

吉田 文顕

—「不二」(advaya) 思想を中心として—

一、栄西の禪と茶について

張 亮

一、覚鑊の浄土教思想の研究

石井奈緒実

一、大釜 寧夏

大釜 寧夏

一、仏教の女性観

船橋 輝子

○哲学科哲学専攻

一、ベルクソンの『笑い』を通じてみる「おかしさ」の本質について
中村龍之介

一、トマスによる神認識
吉富 義展

一、ケアの倫理の視座と特性
岡井 桜

一、メルローポンティ『知覚の現象学』にみる空間概念の諸相
琴谷 惣一

一、ハイデガー『存在と時間』における「了解」の分析
中畑 友宏

一、一般市民の政治参加の効用

—ミル『代議制統治論』にもとづいて—
足立 将馬

一、ピーター・シンガーの動物解放論

—パーソン論とスピーズムの観点から見る人間と動物—
池田 歩

一、アウグスティヌスの自由意志論

—恩恵がもたらす真の自由について—
池田 勇人

一、ニーチェの道徳批判における「ルサンチマン」論
石川 豪

一、ベルクソンの笑い論と日本の古典芸能
乾 元輝

一、アリストテレス『詩学』におけるカタルシスの解釈
今村 恭平

一、妊娠中絶の是非

—権利論およびパーソン論の視点から—
植松 蓮子

一、一般意志の実現可能性
—ルソーが理想とした社会—
浦 由佑司

一、人間存在における自己欺瞞
—サルトルとフロイトの比較対照に
もとづいて—
岡田壮太郎

一、「非—知」とはなにか
—ジョルジュ・バタイユ『内的体験』の
分析を軸に—
岡本 奈々

一、ラッセルの幸福論
—幸福追求にのつての他者との関わり—
荻田篤之介

一、個人的善と社会的善
—西田幾多郎『善の研究』を基に—
川内 洗輝

一、アランの幸福論
北川 夏音

一、デカルトの自由意志論
—自由意志の証明は可能か—
北川 舜也

一、言語の完全性と複雑性への問い
—前期ウイトゲンシュタイン思想の分析に
基づいて—
木本 蒼磨

一、ラッセルの認識論におけるセンスデータ論の変遷
工藤 由汰

一、ソクラテスの死生観
—『ソクラテスの弁明』と『パイドン』を

手がかりに―

黒田ゆうか

一、『聖なるもの』の経験について

―他の宗教との関係性―

佐藤 雪歩

一、センのケイパビリティアプローチ

佐野 澄也

一、センとヌスバウムのケイパビリティ・アプローチ

―その政治的な有用性を巡って―

塩尻晃一郎

一、ニーチェの末人と超人

島 慎之介

一、優れた演劇とはどのようなものか

―アリストテレス、ホラティウス、

多田祥太郎

一、現代社会の追うべき自由とは

―エーリッヒ・フロム『自由からの逃走』を

手掛かりに―

一、コミュニティと人格

田中 善治

一、エーリッヒ・フロムから読み解く家族愛

中野 貴文

一、バウムガルテンの美学における能力論と創作論

中村 信慶

一、現代におけるアリストテレスの正義論の有用性

―アリストテレス『詩学』と行為の原理

中山志穂璃

一、社会と愛の関係性

―フロムにおける愛―

成田 圭織

一、シヨーペンハウアーの音楽哲学

西村 暢記

一、『私』は何者なのかを考える

―フロムにおける愛―

橋上 祥宝

一、『私』は何者なのかを考える

カール・ヤスパーズ『哲学』を手掛かりに―

橋上 祥宝

一、現象の起源としての物自体

―カントの認識論における時間の関係性に

着目して―

―自殺は許されるのか？

前田万里奈

一、デカルト義務論に基づいて―

―カント義務論における二元論の問題

水野 恵太

一、なぜ人は誠実でなければならないか

―エリザベートとの往復書簡における精神と

身体との合一に着目して―

―カントやハーバーマスの道徳原則を通じた

道廣 和暉

考察―

―H・アーレント『活動的生』における「労働する動

物」をめぐる諸相

―自殺はゆるされることか

山口 慶祐

―アリストテレスとトマス・アクイナスを

通して―

―物質否定論と神

山村 優佳

―ジョージ・バークリー『人知原理論』におけ

る觀念の知覚を軸に―

湯淺 慧亮

一、死の定義と自己決定権

―サルトル『存在と無』の時間論を軸に―

米田麟太郎

一、対自存在の自由について

渡邊 成美

―サルトル『存在と無』の時間論を軸に―

渡邊 成美

―サルトル『存在と無』の時間論を軸に―

渡邊 成美

―サルトル『存在と無』の時間論を軸に―

渡邊 成美

○哲学科教育専攻

- 一、ケアと正義はどうかかわるか 丹下 華穂
 - 一、「発達障害を抱えた大学生の社会進出に関する一考察」 中嶋 海人
 - 一、宗教と家族に関する一考察
 - ある新宗教の2世へのインタビューを手がかりに— 牧 春菜
 - 一、教育格差とその対策に対する批判的考察 池堂 颯真
 - 一、大学生を対象とした特定情報の活性化がソースモニタリングに及ぼす影響の検討
 - テレビドラマの場面を用いた標準提示条件と逆転提示条件による違いはあるのか?— 石川 創
 - 一、不登校経験の意識の変化に関する一考察 伊田 彩乃
 - 一、当事者の語りから— 井田 紗綾
 - 一、戦後新教育と学力観 伊田 彩乃
 - 一、大学生における音楽ジャンルの感情への影響の違い
 - ロック・ポップス・ジャズ・クラシックの比較— 伊奈南菜花
 - 一、協力者と非協力者ではどちらが顔を記憶しやすいか 大森 脩貴
 - 一、社会的交換課題を用いて— 奥原 琉貴
 - 一、戦争と教育
 - 学校教科書から見ると— 奥村 佳歩
 - 一、頭髮指導と校則についての一考察 尾畑 沙耶
 - 一、公立学校における宗教教育
-
- 一、現代青年の友人関係における信頼性的変化
 - 友人との親しさに関連した信頼性、自己開示の深さに着目して— 桂田 讓
 - 一、「いじめの四層構造」とスクールカーストの関連について 加納 日和
 - 一、太平洋戦争下の教育についての多角的考察 川井 涼
 - 一、競争意識のない外集団に対する高顕在的自尊心と潜在的自尊心を持つ大学生の内集団ひいき 川上 立馬
 - 紙筆版IAJ課題を用いて—
 - 一、教育の機会均等の実現に向けた政策 河内屋綾乃
 - 一、朝の読書運動の実践に関する一考察 木津みゆき
 - 一、ペットと子ども・若者の学びに関する一考察 近藤 優香
 - 一、不登校は「悪」なのか? 白樫 直也
 - 一、住居と子ども・若者の人間形成に関する一考察 高久保太基
 - 一、大学生へのインタビュー調査を手がかりに— 高田 温人
 - 一、情報社会におけるキャリア教育のあり方 高田 裕暉
 - 一、過去から見る英語教育の問題
 - 戦時中・戦後の歴史の検討を通して—
 - 一、障がい児の親の学びに関する一考察 高久 颯汰
 - 一、親の手記をもとに—

一、発達障害者の困難の現状についての一考察

— 自閉スペクトラム症 (ASD) を中心に —

瀧口 皓介

一、スチューデント・アシスタントの成長に関する

一考察

— フォーカスグループインタビュー調査を

手がかりにして —

田中紗姫乃

一、開放性教員養成課程履修者の意識に関する一考察

— 教職課程履修者および辞退者への

インタビューを手掛かりに —

田中 迅

一、山本鼎が目指した美術教育の一考察

田上 楓

一、学校外教育に関する研究

— フリースクールに着目して —

玉野 綾香

一、GHQによる対日占領政策における戦後教育改革の

理念

中川 凌

一、教育と年収

— 学歴社会との関係性 —

中西 翔太

一、日本のインクルーシブ教育に関する一考察

— 大阪市立大空小学校の実践に注目して —

中村 輝

一、児童虐待増加要因と支援に関する一考察

— 心理的虐待を中心に —

中村 佳喜

一、オンライン授業を受講する大学生における自己調整

学習のロールモデル

— 予見・遂行・自己内省から構成される

Zimmerman の社会認知モデルに基づいて —

中村 琉聖

一、放課後デイサービス職員の成長とキャリア形成に

関する一考察

長岡 莉来

一、高校野球における伝統的な指導方法の今日的な意義

に関する考察

— 甲子園出場経験者の語りに着目して —

並河 柗太

一、吉田松陰の教育思想の形成に関する一考察

西岡 郁香

一、中学校国語科の学習指導要領変遷に関する一考察

— 「ゆとり教育」以降に着目して —

西田 開威

一、自立活動の理念と実践の検討

— 自立観を中心に —

橋本 奏悟

一、若者のSNS利用を通じた学びについての一考察

— Twitterユーザーに対するインタビューを

手がかりに —

八田 茜衣

一、親が子どもの成長に与える影響に関する一考察

— 毒親に関するエッセイの分析を手がかりに —

原田 佳威

一、中国におけるスポーツ選手養成制度の現状と課題

— 国家政策に着目して —

馬場 子龍

一、日本とドイツにおける歴史教育の比較研究

— 現代史教育に着目して —

樋口 和正

一、戦後日本におけるそろばんの学習とその変遷に

関する一考察

廣瀬希菜里

一、幼児の主體的なジェンダー構築

福井 優菜

一、西尾実による国語教育の思想形成

福澤 優奈

―「言語活動」に着目して―

福澤 優奈

一、現代社会におけるビジネス書籍の教育的研究

藤井 雪菜

―マーケティングに関するものを手がかりに―

藤井 雪菜

一、地域活性化としての地方留学に関する研究

藤野 美咲

一、GIGAスクール構想下における学校教育の現状と

課題についての考察

―ICT機器の活用方法に着目して―

藤原 希緒

一、ICT活用の学校間・校内の格差を解消する方法

堀田 悠雅

一、教育の中のジェンダー

正木 愛紗

―道徳教科書に着目して―

松谷玖留美

一、小林宗作の教育思想に関する一考察

松谷玖留美

一、ごっこ遊びの意義に関する考察

松谷玖留美

一、化粧・被服行動についての学びに関する一考察

松谷玖留美

―大学生へのインタビュー調査を手がかりに―

松葉 一毅

一、子ども・若者における金銭感覚の変化に関する一考察

松本隆之介

―大学生へのインタビュー調査を手がかりに―

松本隆之介

一、現代の大学生の性意識に対する一考察

御厨 佑一

―性行動についてのインタビュー調査を手がかりに―

御厨 佑一

一、道徳教育における愛国心についての考察

御厨 佑一

一、ヘルバルト教育学における道徳的品性陶冶に関する考察

村上 大樹

一、大学生の挫折経験への捉え方に関する一考察

森 美優

―その変容に着目して―

森 美優

一、学力と児童中心主義の関係についての一考察

山口菜々子

―学校教育をめぐる言説に着目して―

山口菜々子

一、学習支援ボランティアを通じた学生の学びに関する考察

山下 憲彰

一、三重県における高等教育機会の地域間格差に関する一考察

山中 梨央

一、韓国の初等学校における英語科についての一考察

結城 仁

一、胎児期・乳幼児期からの虐待予防

芳崎 春奈

―虐待死の事例検討を通して―

芳崎 春奈

一、大学生が読書を行う動機の検討

山本 陽生

―感情・評価・捉え方の観点から―

山本 陽生

○臨床心理学科

- 一、自己肯定感と攻撃性の相関性について 西頭 武宏
- 一、大学生における現実場面及びSNS上での居場所感と生活不安との関連について 大熊 隆照
- 一、子どものレジリエンスに関する文献研究 金羽木大介
- 一、日本における音楽療法の現状と課題 木野 和馬
- 一、留年をして学んだこと 古屋 和樹
- 一、友人からの要求に対する大学生の断り方 和田真由美
- 一、幼児教育専攻の学生における実習前後の保育者効力感の変化について 神谷 唯那
- 一、保育学生から保育職になった際の子どもの観の変化について
- 虐待予防の観点より— 佐藤 佑香
- 一、大学生の自己受容と友人関係の関連について 青山 稜
- 一、友人関係が自己肯定感に及ぼす影響 赤川 涼
- 一、大学生の時間に対するイメージの傾向 秋山 雄馬
- 一、大学生における先祖供養の心理的効果
- インタビューを通じて— 芦田 拓斗
- 一、大学生における絵本の心理的意義について
- インタビュー調査を用いて— 足立 夏江
- 一、甘えと友人関係の関連性について 穴瀬麻帆花
- 一、大学生のLGBTQ+に対するイメージについて 井口 葵
- 一、香りが心身に及ぼす心理学的効果 磯野 光里
- 一、大学生のキャラが友人関係に与える影響 一瀬 実怜
- 一、女子大学生における「居場所」の捉え方に関する一考察 伊藤 杏珠
- 一、コロナ禍の学生生活と感覚過敏について 犬塚 研斗
- 一、なぜ人は演劇を観るのか 上原 良太
- 一、属性が被害者非難に与える影響 内田 万尋
- 一、日本におけるマインドフルネスの拡大
- テキストマイニングによるマインドフルネス研究タイトルの時系列分析— 内田 雄介
- 一、親に対する信頼感と自己肯定感の関係性について 榎川 勝吾
- 一、フロー状態に移行するための条件の研究 大塚 健吾
- 一、大学生における自己受容への願望について 岡 恭佑
- 一、大学生のオンライン授業に対する心理的ストレスについて 岡尾 柚季
- 一、父娘関係に関する文献研究
- 映画「オペラ座の怪人」を通して— 岡本 梢
- 一、大学生における攻撃性と自尊感情の関連性について 小賀 光莉
- 一、大学生の承認欲求と自己肯定感との関係 奥田 優花
- 一、ノベルゲームと小説の比較を用いた物語への没入感についての研究 金子 千夏
- 一、SNSとコミュニケーション・スキルの関係

について

河合美衣菜

及ぼす影響について

下村 真菜

- 一、犯罪不安およびメディアの接触頻度と非行少年に
対するイメージとの関連性について 上林 結理

- 一、ペットが飼い主に与える影響に関する一研究
—特にコロナ禍におけるペットの役割—
菊澤 千夏

- 一、薬物を使用していた時の医療観察法について
菊地 迪子

- 一、新型コロナウイルス感染拡大下でのストレスに
対する心理的な支え 貴田 晴香

- 一、大学生における劣等感と親の養育態度、
自尊心との関連 藏本 七海

- 一、現代の大学生のノスタルジーのイメージ
小園 淳平

- 一、大学生の自立について 米田 智美

- 一、恋愛観の男女差の一考察 近藤 綾奈子

- 一、リップメイクにおける色彩効果を用いた心理的印象
の男女差について 塩出 和香

- 一、親の養育態度と大学生の友人関係 重年 侑翼

- 一、大学生における共感性と感受性が対人関係に及ぼす
影響について 下西 陽和

- 一、大学生の居住希望と性格について 寫越 結衣

- 一、現代大学生の信頼感が友人関係における切替に
嶋田 唯香

- 一、大学生における幼少期の地域コミュニティと子育て
について 杉山 真央

- 一、大学生における家族関係とアイデンティティおよび
自己有用感の関連性について 杉山 祐太

- 一、大学生における死生観教育に関する一考察
—インタビュー調査を通して— 諏訪 恭子

- 一、女子大学生におけるかわいい感情について
関藤 夢乃

- 一、動物に対する態度と自己肯定感の関連性について
仙川 博規

- 一、大学生における居場所感について 高岸 香里

- 一、大学生の対人関係におけるストレスと精神的回復力
の関連について 高松 恵名

- 一、応援をすることが日常生活に与える影響について
田染 龍

- 一、緊張場面で生じる不安に対する緩和に有効な動作
に関する一考察 田邊 菜乃

- 一、大学生への面接調査を通じて—
大学生の音楽聴取における心理的効果について 田畑 綾音

- 一、子どもの遊びの発生要因、環境要因 徳田 幸一

- 一、大学生における「居場所」と精神的健康の関連
について 殿村実乃里

- 一、大学生の学校適応感とコミュニケーション能力の

関連について

一、死生観に関する講義を受講した人の認知の変化
中西 有彩

一、インターネット調査を通して—
中西 美緒

一、大学生における世代間交流について
— インタビュー調査を通して—
中山 朋貴

一、大学生におけるダイエット行動が自己肯定感におよぼす影響の性差についての一考察
並河ひかる

一、大学生の心の居場所に関する研究
西前 栞

一、大学生の部・サークル活動における自尊心と達成動機について
林 海斗

一、大学生における孤独感への対処方略についての一考察
平野 圭佑

一、大学生の過去における非行の抑制要因について
古川 晴奈

一、自己肯定感に対するきょうだい関係の影響について
古田 絢子

一、音楽聴取による感情の変化について
古橋 凜々

一、Instagramを利用することで利用者の主観的幸福感にどのような影響があるのか
正木 優菜

一、オンライン授業での体験から考えるオンラインでのコミュニケーション
松枝 甚平

一、大学生における友達観について
松岡 笑

一、ゲーム依存と孤独感の関連性
松長 武蔵

一、両親の養育態度が大学生の完全主義に与える影響について
松野 亜弥

一、大学生におけるストレスサーとしてのSNS

— SNS疲れから見えてくるもの—
松本 亮

一、大学生が抱く大人イメージについて
水野 里香

一、大学生の「リアル」と「匿名」アカウントの使い分けによる自己開示と交友関係意識に関する一考察
南 綾音

一、日常生活の心理状態と夢の内容の関係性について
村山 碧

一、大学生における個人的及び対人的気晴らしの効果の違いについて
森 日奈子

一、バトントワーリング選手のパフォーマンス向上に
森川いずみ

一、関わる心理的要因
森川 真奈

一、ライフイベントにおけるショッキングな出来事を受け止め方
森川 真奈

一、特別養護老人ホームにおける介護職員の仕事に対する心理的变化について
八木咲悠加

一、Instagram調査を通して—
八木咲悠加

一、ストレスコーピングとマインドフルネス傾向に関する一研究
安田 優月

一、コミュニケーションの図り方の違いにおける出生順位の影響
山岡 雛乃

一、いわゆる「子ども食堂」の実態についての研究
山上 帆乃

一、大学生における介護感について—
— インタビュー調査を通して—
山崎 陸

一、文体と厭世観の相関 山崎洸太郎

一、大学生のアルコールに対する意識とストレス 山本ほの香

一、コロナ禍による日常生活の変化が大学生の幸福感に及ぼす影響についての一考察 山本夕莉乃

一、孤独感類型におけるひとりであり得られる能力の差について 横山 真奈

一、大学生におけるSNSの利用時間・SNSの捉え方と孤独感情・対人的疎外感の関連について 吉川 大貴

一、大学生における音楽聴取による心理的変化について — インタビュー調査を通して — 吉松 真凜

一、親子関係と自尊心の関連性について 力身真利亜

一、「子ども向けヒーロー番組」を楽しむ大学生の志向 渡邊 晃太

一、柔道の試合に臨むまで — 対話的自己エスノグラフィによる分析 — 渡辺 世奈

一、親子関係と子どもの社会的スキル獲得との関係 渡邊奈々子

一、集団で意見が通る人の特徴 渡辺 百佳

一、死別体験による心理的負荷を軽減する有効的方略について — インタビュー調査を通して — 池田 夏海

一、家族機能と大学生の大学適応感の関連性について 岡田 拓朗

一、女性の持つ死生観 鎌田季紗良

一、養育態度と承認欲求の二側面の関係 岸本 葵

○歴史学科日本史学専攻

一、持統天皇の皇位継承権についての考察 畑中美奈穂

一、明治皇室典範制定史の考察 加藤 有基

一、新選組の成立時期と隊士の変遷 松相 佑汰

一、刀伊の入寇と西国武士の成り立ち 青芝 洸典

一、近代化の過程における日清戦争の意義 有水 涼太

一、江戸時代における刀剣価値について — 徳川吉宗の刀剣政策を中心に — 今村 直人

一、婦人参政権獲得運動と治安警察法 — 転換点としての第44議会 — 井龍 奈実

一、妖怪学にみる井上円了の思想 大河 水月

一、鎮西探題の成立時期について 大久保輝優

一、舟木本洛中洛外図と近世初期の公家 大村 美菜

一、吉田松陰の思想形成と教育実践 大矢 航平

一、早良親王廃太子の再検討 岡林 佐那

一、近代日本におけるプロテスタントの普及と影響 岡本あすか

一、陸軍幼年学校の教育制度とその目的について — 明治期を中心に — 小川 聖真

一、「応天門の変」再考 奥 武輝

一、維新期の洋装化 小野 雄大

一、服制と天皇家 — 本能寺の変と羽柴秀吉 貝 晴臣

一、大津皇子の生涯と謀反 加藤 春佳

一、賀川豊彦の社会思想について

— 優生思想と労働組合の形成を中心にして —

一、豊臣秀次の研究 金川 真道

一、豊臣政権期における京都の町 川平 悠馬

一、伊勢御師の一考察について 岸畑 美玲

一、平清盛と後白河院 北村 雄弥

— 協調と対立 —

一、明治期の京都市における初等教育の特色 久才 英莉

— 番組小学校を中心に —

一、元治・慶応期における薩長の政局 清瀬 裕弥

— 西郷隆盛とのかかわりで —

一、石山合戦における一向一揆の動向と織田信長の対応 越前一向一揆、長島一向一揆を中心に —

— 「不改常典」の一考察 清原 聡太

一、橘諸兄と光明皇后の関係性に関する考察 熊谷 梨乃

一、白村江の戦い以後における古代山城の配置に 久米 拓海

— 関する考察 古賀 仁志

一、吉備真備と遣唐使 小谷 斗生

一、森有礼の思想形成と教育政策 小山 巧

— 悲劇としての白虎隊史 柴田 南

一、三好権力・室町幕府の京都支配 南

— 永祿期を中心に — 清水 歩

一、初期室町幕府における足利直義の立場 杉本 剛洋

一、黄文氏について 渡来から信仰まで —

一、阿倍内親王の立太子の特異性 瀧本清士郎

— 他の古代女帝と比較して — 竹森 咲貴

一、光仁朝における藤原氏 田中 信行

— 式家の動向を中心に — 田中 力也

一、武田信玄の信濃侵攻 田中 里奈

一、護良親王の勢力について 奥州・紀州・和泉を中心に —

一、出雲国造神賀詞についての一考察 辻 真由

一、豊臣大名真田氏の成立過程 角田 慧輔

一、鎌倉時代の陰陽師 寺谷 茉美

— 朝廷・幕府における役割 — 中尾 崇哉

一、楽市令の変遷と目的 中尾 崇哉

一、日本近代における精神病者の扱われ方 中尾 広海

— 京都岩倉地域を中心に — 中尾 広海

一、公武関係からみる將軍権力 南北朝期を中心に —

— 南北朝期を中心に — 中村 穂高

一、南北朝期の合戦にともなう戦闘の変化 中村 美月

— 北条氏の権力獲得 時政・義時を中心に —

— 時政・義時を中心に — 西谷 宥威

一、明治鉄道計画の諸相 二部野 翔

— 軍部の要求とその影響を中心に —

— 軍部の要求とその影響を中心に —

一、幕末維新期における民衆の天皇観

島中こころ

一、近世初期政権とキリスト教

植田 佳奈

一、寛容から排斥・禁教へ

早川 幸佑

一、遣唐留学生と奈良朝政治史

平原 靖久

一、吉備真備を中心として

廣瀬 貴哉

一、菅原道真の大宰府左遷について

藤井 雪哉

一、アジア太平洋戦争期における建物疎開

藤本 和寿

一、京都を中心に

古谷 彩乃

一、邪馬台国に関する一考察

小川 陽向

一、魏志倭人伝を中心に

松井 唯

一、平氏の軍事体制

小川 陽向

一、外交政策をめぐる軍と外務省

松井 唯

一、1920年代・30年代を中心に

古谷 彩乃

一、沖繩戦における日本軍と住民

小川 陽向

一、新聞にみる沖繩戦

小川 陽向

一、中世後期・江戸初期における和泉施福寺の変遷

小川 陽向

一、近世社会における賭博

松井 唯

一、諸身分との関係を中心に

松井 唯

一、安国寺恵瓊の立場と役割

眞鍋斗輝央

一、江戸城における大奥の組織と役割

三宅 翔也

一、中世における悪党とその社会的地位

宮崎真生子

一、明治初期の城郭処分

百瀬 陽太

一、存廢基準と活用方法

森 泰士朗

一、応仁の乱と民衆

森 泰士朗

一、足輕と京都周辺を中心に

森脇 芽来

一、歴史的事実としての織田信長と現代サブカルチャー

柳沼 咲良

一、室町幕府と祇園社

山川 真季

一、応仁の乱後を中心に

山崎 孝二

一、上宮王家滅亡と乙巳の変の首謀者について

山崎 孝二

一、建武政権における足利尊氏の役割

吉井 隆征

一、江戸時代初期における兵法師範について

吉田 成希

一、柳生新陰流を中心に

米澤 曆

一、纏向遺跡から見た邪馬台国

米澤 曆

一、幕末の外交をめぐる徳川斉昭の政治的立場

脇田 杏未

一、苗木藩における廢仏毀釈と民衆

渡邊 かよ

一、政策の受容と信仰の諸相

山口多賀子

一、『交隣提醒』に見る雨森芳洲の思想

山口多賀子

一、南匈奴と劉淵

山口多賀子

一、中国における非漢民族王朝の建国について

岸和田知樹

一、壬辰・丁酉倭乱における朝鮮被虜人とその影響

笹壁 愛里

一、モンゴル帝国におけるクビライ政権の成立

谷中 公紀

一、宋代の貨幣経済

松本 和也

一、安史の乱に関する一考察 山本 拓実

一、正史「三国志」と「三国志演義」・「三国志平話」などの対比

— 伺えるその背景 —

朝國 奎吾

一、オスマン帝国末期における人々の生活

安藤 晴花

一、明清交替期の女真族について

五十嵐 仁

一、アショールカ王の大帝国統治方針

池岸 晃輝

一、ティムール朝のティムール死後の国内情勢について

石井 励

一、唐代の通行証「過所」「公驗」

— その機能と差異に注目して —

磯道 莉菜

一、蜀漢後主期における宦官黄皓の専横について

井田美奈子

一、チンギス・カンの祖先とその説話

井上 航

一、紀元前10世紀から紀元前6世紀の古代イスラエルにおけるヤハウェ宗教と異教信仰

— パアル信仰の弾圧と復活 —

今井 美月

一、古代中国における貨幣価値

上杉 優里

一、清末の外交について

— 翁同龢と梁啓超から —

岡崎 真弥

一、秦の興亡と法家思想について

野田 珠緒

一、西魏・北周の政権構造と胡漢融合

奥野 真紅

一、唐代におけるソグド人の東方活動

亀田 直輝

一、チンギス・カン家とその姻族

川崎 聡士

一、日本支配期朝鮮における教育令とその受容

一、夏王朝について

— 創始者「禹」の事跡 —

河野 紘平

一、清朝宮廷絵画における郎世寧の影響

川端 駿介

一、初期道教と老子想爾注

木俣 風花

一、太平天国についての一考察

金 勇樹

一、モンゴル・元朝の日本遠征と高麗王朝

草木 茂雅

一、アヘン戦争と林則徐

近藤 愛輝

一、北魏における廢仏とその復興

近藤 碧

一、ガーシヤール朝期における女性のコム参詣

近藤 樹

一、初期イスラーム時代における城郭都市建設について

佐藤 真帆

一、古代中国における医学と陰陽思想の関わり

篠原 碩

一、カルルクの西遷再考

島田 旭

一、セミレチエ地方を中心に

清水 亮

一、唐長安城の都市計画と住民

白石佳那子

一、シユメール初期王朝時代における耕地について

曾我 将広

一、古代中国の死生観

高栞 美空

一、突厥の阿史那思摩について

竹内 敬哉

— 称号の問題を中心に —

一、陳独秀とその時代

— 五四新文化運動と第一次国共合作期を

中心に―

- 一、アヘン戦争についての一考察 立岡 涼太
- 一、則天武后の水脈 寺西 真輝
- 一、ティムール朝の首都と建築 永尾安未華
- 一、エジプト新王国時代の人間社会において亜麻布製 永織 美羽
- 衣服の果たした役割 夏見 佳子
- 一、コプト教徒にとつての教会と修道院 新美 奈々
- 一、十世紀于闐の服飾 西辻 成里
- ―曹氏帰義軍との関係からみた―
- 一、日本の韓国併合における一進会の役割について 野々口侑樹
- 一、18世紀オスマン帝国における印刷本の普及と 橋本 志織
- その背景についての一考察 畑中 莉奈
- 一、マンギト朝期のブハラ社会と針仕事職人 馬場 峻
- 一、漢代の予言思想の展開 平野 元貴
- 一、曹魏における人材登用について一考察 伏見 嘉奈
- 一、明清時代のマカオ 三宅 一生
- 一、王安石の保甲法 村木廉一朗
- 一、義和団事件についての一考察 横江 晃輔
- 一、モンゴル帝国の軍制 ―チンギス・カン勃興時を中心に― 吉野沙瑛子
- 一、マカート二夫人の見たカシュガールの生活様式 三百田葉里
- 一、宋代の経済生活について

○歴史学科仏教史学専攻

- 一、『日本靈異記』における女性観について 大給 藤弥
- 一、カンボジア仏教美術の考察 衣川 航平
- ―アンコールを中心に― 西野 太賀
- 一、親鸞と聖徳太子 三松 真希
- 一、源信の信仰と貴族社会との関係 赤地 優斗
- 一、蓮如の女性救済の立場 ―その教化活動と著述を通じて― 井戸川祐依
- 一、中世における寺社勢力の宗教意識 ―末法思想を中心に― 印南 杏
- 一、家康神格化問題 乾 凌仁
- 一、本願寺東西分派の要因 上田 瑤真
- 一、ベゼクリク石窟に関する一考察 植松かりん
- 一、清沢満之における国家観と真宗信仰の立場 植村 真美
- 一、ヒンドゥー世界インドにおける仏教の歴史的意義 上吉 元
- 一、栄西の評価をめぐる検討 馬本 大樹
- 一、白川党教団改革運動の興亡過程の検証 梅溪 順慶
- 一、美濃・飛騨における本願寺教団の展開 大八木唯生
- 一、隋末唐初の礼敬問題について 尾古貴陽大
- 一、ビームラーオ・アンベードカルの不可触民解放運動 角丸諤己路
- 一、鳩摩羅什の訳経活動に関する一考察
- 一、新義真言宗別立の背景

— 覺鑊を中心として —

- 一、空海における密教布教の実態

金杉 颯大

— 嵯峨天皇との関係を中心に —

- 一、サムイエの宗論とチベットにおける仏教受容に
関する一考察

河内 陸志

一、円爾と権力者との関係について

- 一、一休宗純の禅僧観

岸上 和暉

一、仏像の起源に関する一考察

- 一、妹尾義郎の戦争観の変遷とその背景

木村 彰仁

一、推古期における仏教受容の実態

- 蘇我馬子の政策を中心に —

倉坂 考陸

一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

- 一、近現代タイの女性修行者と比丘尼復興運動

児島 百音

— 蘇我馬子の政策を中心に —

- 一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

佐々木拓夢

一、近現代タイの女性修行者と比丘尼復興運動

- 蘇我馬子の政策を中心に —

佐藤 凌

一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

- 一、近現代タイの女性修行者と比丘尼復興運動

重村 謙治

— 蘇我馬子の政策を中心に —

- 一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

清水 亮哉

— 蘇我馬子の政策を中心に —

- 一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

清水 亮哉

— 蘇我馬子の政策を中心に —

- 一、魏氏高昌国時代の仏教に関する一考察

清津野咲輝

— 蘇我馬子の政策を中心に —

一、平安前期における御霊信仰の展開

— 貞観五年御霊会を中心に —

田原健太郎

一、貴族社会における薬師信仰の内実

— 仁明朝を中心にして —

中川 優介

一、夢窓疎石と為政者

一、水野梅暁の思想についての一考察

中嶋 紀瑛

一、高楠順次郎の足跡

— 国粹主義と仏教研究の狭間 —

山口 啓樹

一、平安貴族社会における浄土教信仰の受容

— 藤原道長と慶滋保胤を中心に —

福島 誠也

一、日本中世における女性の成仏・往生について

— 権門との関わりを中心に —

中村 咲良

一、行基集団と古代日本の仏教政策

— 高麗仏教に関する一考察

中家 一乃

一、八関会を中心に

— 『夢記』からみる明恵の思想史

永井 暉人

一、中世後期における高田専修寺と本願寺

— 真慧と蓮如を中心に —

長澤 朋

一、中世日本の仏教と医療

— 呪術から医療への変化 —

長濱悠太郎

一、北条時頼の宗教政策と臨濟宗

— 清沢満之の精神主義の形成とその歴史的意義

西村 由紀

一、禪宗六祖慧能の思想について

— 呪術から医療への変化 —

八力 廣顯

一、北条時頼の宗教政策と臨濟宗

— 清沢満之の精神主義の形成とその歴史的意義

早本 桃悠

— 清沢満之の精神主義の形成とその歴史的意義

— 呪術から医療への変化 —

平田 大悟

— 呪術から医療への変化 —

福井 雄大

一、ガンダラ美術にみられる本生譚についての一考察

藤 慶隆

○歴史学科文化遺産学専攻

一、織豊期城郭について

吉岡 千捺

一、蓮如と文明六年一揆

藤田奈那子
松尾 優輝

一、古墳時代中期の渡来系集落について

青木 蘭

一、教派神道の成立過程

—天理教を中心に—

松岡 結意

一、興福寺八部衆立像の復元的考察

蕪 真生

一、水平社の成立と本願寺との関係

松實 将志

一、貞観五年御霊会の成立

—政治的・宗教的考察を踏まえて—

磨 和沙

一、室生寺金堂本尊像の位相

大石 美咲

一、清目と清掃について

—検非違使にみる「非人」統括—

三宅 陸

一、高槻市安満遺跡の保存と活用について

小野さやか

一、天武期における仏教受容の実態

—仏教と神祇信仰との関係を中心に—

宮村 若奈

一、近世出土蒔絵の保存処理に関する研究

—東京都港区大養寺跡遺跡出土漆器などを例として—

柏田明日菜

一、島地黙雷の教部省対応の変遷とその背景

榎木 翔太

一、栄西と公武権力

一、道綽の念仏理解における一考察

一、一遍と踊り念仏

一、志怪小説と仏教に関する一考察

—『冥祥記』に見る南朝期の仏教について—

山中 有佳

一、擬洋風建築外観の装飾に関する研究

—龍谷大学大宮学舎の意匠を例として—

熊田 啓佑

一、平安時代における女性観とその変化

—仏教思想との関わりを手がかりに—

湯原 綾音

一、平安末期装飾経の研究

—平家納経を中心に—

小林英里香

一、教部省成立・崩壊過程と仏教界との関係

横川 巧真

一、歌川広重「名所江戸百景」における表現の

特色について

佐藤 咲希

一、地獄絵における場面描写の変遷

一、若冲画の植物の表現について

服部 佑紀

— 聖衆来迎寺蔵「六道絵」を中心に—

— 花卉図を中心に—

谷越 南水

一、戦争遺跡の保存と活用についての考察
— 戦争の実相を後世に伝えるために—

一、近世における彩色材料に関する基礎的研究

一、京町家の保存と活用について

— 輪王寺青銅燈籠などの彩色を例として—

一、古民家の保存・活用のための取組
— 民家展示施設と伝統的建造物群保存地区の
対比から—

土屋 花音

一、古墳時代の盾について

一、大津百町とその町家

一、文化財修理に用いられる伝統的にしみ止め材料の
効果に関する研究

— 町家の文化財活用の観点から—

— ドウサの濃度差による影響の比較—

中谷羽花菜

平井 紀基

一、岩松院本堂天井画「鳳凰図」の作者について

星 萌花

— 東町祭り屋台天井画「鳳凰図」との比較を
通して—

松本 俊輔

一、古墳時代後期のガラス玉について

松本 千裕

— 奈良県の古墳出土例から—

三木 香乃

一、変色の著しい近世板絵の彩色復元に向けての
文化財科学的研究

— 山科本願寺に関する考古学的考察
— 輸入陶磁器を中心に—

— 金峯山寺板絵着色廻船入港図額を例として—

— 砥部焼の保存・活用について

西田早弥華

— 中四国地方の注口脚台付土器について

— 「大瀑布図」を中心に—

— 瀬戸内地方における弥生時代の漁網錘

面村 未羽

— 文化的景観の活用
— 「和束町の宇治茶の茶畑景観」を
中心として—

— 平安初期密教像を中心に—

— 出土金属遺物の脱塩処理に関する基礎的研究
— 鑄造鉄製品を例として—

長谷川梓葉

山本 達大

— 文化財建造物における白色塗装のカビ被害に関する
基礎的研究

— 但馬地方の律令祭祀

— 膠胡粉塗りを例として—

山本 璃子

— 膠胡粉塗りを例として—

山本 達大

— 膠胡粉塗りを例として—

— 膠胡粉塗りを例として—

— 膠胡粉塗りを例として—

— 膠胡粉塗りを例として—

- 一、文化財建造物の漆塗装の劣化とその保存に
関する研究

—彦根市井伊神社社殿を例として— 横田 一真

- 一、伊丹市における文化財活用現状と展望について

—阪神間の地方公共団体との比較から— 若松 星

- 一、河内における古墳時代の渡来系遺物について

—ミニチュア炊飯具を中心に— 若山 未来

- 一、金峯山寺蔵王堂の赤色塗装材料の変遷に関する研究

—蓮華王院三十三間堂と比較して— 吉田 圭佑

○日本語日本文学科

- 一、新美南吉『「こんぎつね」論

- 一、「月の都」から読み解く『竹取物語』

—異空間の役割と独自性— 竹本 真理

- 一、立原正秋「暗い春」論

- 一、「山家集」恋部の「月」歌群について

井岡 和希

- 一、八代集哀傷部における植物詠

石川 七海

- 一、中学校・高等学校における古文教育の意義と指導

石橋 乃愛

- 一、程度副詞「非常に」「きわめて」の比較

伊東 花佳

- 一、「平家物語」における平敦盛とその享受

井上 建

- 一、謡曲『定家』の詞章について

大浦 咲穂

- 一、「新古今和歌集」における『伊勢物語』歌の享受

大田 祥輝

- 「蛇小僧」を中心として—

一、谷崎潤一郎「人魚の嘆き」論 大田実可子

- 一、八代集の「雨」の歌について 大槻 詩織

- 一、驚きを表す感動詞「あら」と「まあ」の比較 尾形 一樹

- 一、「竹取物語」における隼人の影響 奥蘭 里香

- 一、村上春樹『レキシントンの幽霊』論 小野 真鈴

- 眠りから導く夢の正体— 柏木 美来

- 一、天神縁起について 柏木 美来

- 丙群根津本と宮内庁六卷本を中心に— 梶田 一樹

- 一、森鷗外「里芋の芽と不動の目」論 梶田 一樹

- 諦念 (Resignation) を視座として— 狩野 仁

- 一、野坂昭如「火垂るの墓」論 狩野 仁

- ホタルの存在意義— 菊地 果音

- 一、平仮名本「因果物語」における「孝」の研究 菊地 果音

- 一、「竹取物語」の宗教風刺性 木澤 咲子

- 一、近世における文学と商業出版の出会い 岸川 徹己

- 一、基礎化粧品広告に見られるオノマトペの 北野くるみ

- 男女差についての分析 木下 湖晴

- 一、近現代における「連体詞」に関する記述について 久保 瑞歩

- 一、近世における情報文化の研究 久保 瑞歩

一、『竹取物語』「五つの難題」の複合性と拒絶意思

— 原型説話との構造比較から読み解く —

久保井智紀

一、現代の国語辞典を中心とした接辞の分析 黒田 聡実

一、関西方言の否定辞における単純否定・可能否定について 桑山 柗太

一、『竹取物語』の思想的立場

— 『死』の描かれ方に注目して —

小林明日香

一、『竹取物語』のモチーフ

— 『易経』を手がかりに —

小林 尚子

一、人称代名詞「おまえ」に関する研究 酒井 祐太

一、ホームズの日本語訳における会話文の比較

榑原 理奈
坂本ゆきね

一、「あざとい」における意味・用法・対象

一、近現代における「いらっしやいませ」の表現について 佐々木朱音

一、近代上方歌舞伎の展開

— 河内屋二代を中心に — 笹原 有貴

一、「勉強」と「学習」の意味・用法についての考察 杉本 翔

一、『更級日記』における物語と伝教

— 菅原孝標女にとつての救済 — 清家 希

一、『万葉集』における贈り物の和歌 田浦 澄英

一、「クックパッド」で使われるオノマトペの考察 高谷 仁哉

一、「七不思議」の生成と流布

— 『今昔物語集』本朝世俗部の動物説話について — 竹井 真悠

一、『竹取物語』における天人について 竹村 昌晃

一、蘆屋道満の人物像について 田中 勝己

一、鯨絵の研究 田中 悠梧

一、男女を区別する職業名の考察 田中 雄大

一、邦楽の歌詞に見られる「愛」と「恋」について 田邊 柗

一、『日本永代蔵』における出版統制と笑い 谷ノ上皓太郎
田丸菜名帆

一、茶掛の研究

— 織豊期から江戸時代前期を中心に —

一、書籍販売業の現状と課題 築山 亜未

一、江戸時代の出版物から見た教育 津田 安加

— 往来物などによる検討 —

一、『新古今和歌集』における夕暮の和歌 寺分 玲央

一、『新古今和歌集』における「衣(ころも)」 友田 清香

「衣(きぬ)」 「袖」の和歌 内藤 結

一、江戸時代の化粧と女性の美 中川 栗

— 現代との比較による考察 — 中谷 美紀

一、「笑い」に関する語彙の分析 中日奈 歩

一、「異なる」と「違う」の差異の考察

- 邦楽の歌詞を中心に—
- 一、『堤中納言物語』「貝合」における季節の交錯 縄田 優歩
- 女童の装束をめぐって—
- 一、『番町皿屋敷』の出版と展開 新田 美帆
- 一、実録小説の〈成長〉について 濱岡 利奈
- 一、式子内親王の夢の歌 濱口 結貴
- 一、覚如の和歌について 速水 紫苑
- 『慕婦絵詞』を中心に—
- 一、『とりかへばや物語』における異性装 東野 空
- ジェンダーの視座から—
- 尾藤 美奈
- 一、香川方言における「ヨル」「トル」の使用方法に 尾藤 美奈
- 関する考察
- 関西方言との比較を中心に—
- 福崎すずか
- 一、太宰治「正義と微笑」論 福沢 里保
- 日記体における空白の意義—
- 福西 拓大
- 一、日本の新劇 福西 拓大
- ロミオとジュリエットなど—
- 古沢かなで
- 一、『都市』と『都会』の意味・用法について 堀井 萌華
- 一、三島由紀夫『美しい星』論 堀井 萌華
- 浮上する城下町仙台—
- 政治家 拓生
- 一、『正治初度百首』における後鳥羽院の本歌取り歌 増田 帆南
- 一、外郎の変遷 増田 帆南
- 一、『建礼門院右京大夫集』における料紙と和歌 三浦 みる
- 一、『諸国百物語』についての研究 溝上 茉月
- 一、近現代における「当て字」の概念について 宮後 亜衣
- 一、『百人一首』兼盛・忠見歌の享受 六川 諒
- 一、『今昔物語集』本朝世俗部における女性説話 村上 修斗
- 一、『定家卿百番自歌合』秋部における結番方法 村上 修斗
- 一、『源氏物語』における紫の上の嫉妬心 村松 蓮
- 光源氏との関係からみる要因—
- 森田 茉奈
- 一、『新古今和歌集』の恋歌における植物の表現 森永 紗蔵
- 一、『トル』による動詞化について 柳田ひなた
- 一、川端康成「浅草紅団」論 柳田ひなた
- 弓子が「明公」と名乗る意味を探る—
- 矢野 花菜
- 一、鶴のイメージの形成と情報・出版文化 山田裕次郎
- 一、田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」論 山田裕次郎
- ふたりのジョゼを中心に—
- 吉田 奈央
- 一、日中の文学作品に見られる二人称の対照研究 ソン ロシユウ
- 一、『御伽物語』と『曾呂利物語』の比較研究 山崎 由芽
- 英語英米文学科
- 一、『Thelma and Louise』 The Road to Gaining their Self-Affirmation —

- 一、*Agnes Grey*における主人公の感情抑制と自己主張
—— 時制に焦点を当てて ——
奈良 千夏
- 一、Gender changes in Disney movies
木村 茉歩
- 一、笑いの語用論的分析
—— 漫画PEANUTSを例に ——
中山亜佳音
- 一、Comparison of special needs education in the UK
and Japan
長田 恭佳
- 一、Fighting Darkness
—— The Development of Crime and Crime
Prevention in Britain ——
藍田 一摩
- 一、Drag Queenの言語表現
—— *RuPaul's Drag Race*を中心に ——
石田 幸翼
- 一、Rainbow Pride
—— A Comparison of LGBT History in Britain
and Japan ——
石橋 周弥
- 一、ラップの音声特徴
—— 日英比較の視点から ——
猪原穂乃佳
- 一、日英の食感語
—— 擬音語から擬情語へ ——
今立 瑠佳
- 一、The Golden Game
上村 菜々
- 一、Food Problems in America
植山 一明
- 一、1970年台ロックとアメリカンドリーム
内垣 舞香
- エアロスミスの歌詞とアメリカ社会 ——
鶴野 咲也

- 一、丁寧表現における日英比較
—— 1990年代アメリカ映画から ——
瓜田野々花
- 一、Unfair Treatment of Animals
大西 真叶
- 一、*Jane Eyre*における respectability
岡 紘奈瀬
- 一、The Eye on Society
—— George Orwell and Meaning of Dystopia ——
岡島 優太
- 一、比喩表現の日英語対照研究
—— 三島由紀夫『金閣寺』を例に ——
岡田虎之輔
- 一、英語教育におけるイギリス児童ファンタジー文学の
有用性について
奥 京花
- 一、イギリス人のアメリカ英語
—— ポピュラー音楽を例に ——
奥 亮太郎
- 一、痛覚のオノマトペ
—— 日英比較を中心に ——
尾熊 夏湖
- 一、マンガに見る日英翻訳について
—— 『ドラえもん』のひみつ道具を例に ——
河合 迅斗
- 一、Music History of New Orleans
—— Focus on Jazz around 1900 ——
河嶋 優希
- 一、『自負と偏見』における18世紀の結婚
—— エリザベス・ベネットとジェイン・オース
ティン ——
喜多 智香
- 一、性表現規制の今後の展望
—— 日英の規制事例を元に ——
北川 果琳

- 一、 A Christmas Carol におけるチャリティー 北村 悠
 一、 構文文法と分解構文
 — I helped him with his homework — 木村 圭吾
 一、 down を含む句動詞 熊谷 紗奈
 — 意味拡張の視点から —
 一、 Global Environment: The Problem of Water 桑原 美侑
 一、 Angry youth 神前 咲良
 — The story of British youth culture. —
 一、 語用論によるカタカナ語の分析 小玉 朱里
 — アドホック概念形成の観点から —
 一、 Motown's Influence on American Music 小松美沙貴
 一、 ハリーポッターから見る差別問題 小湊 裕太
 一、 Silas Marner における母性の表象 小宮 舞華
 一、 J.D.サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』 小山紗玖良
 — つづての一考察 — 坂田佳菜子
 一、 Frankenstein における怪物の正体 佐古 知也
 一、 ショーン・オーウェル『1984』
 — 監視社会と全体主義 — 篠尾絵莉香
 一、 映画の字幕翻訳 篠原 花音
 — The Bucket List を例に —
 一、 Animal Farm における馬の役割
 一、 「映画と小説の表現方法の違い」
 — 『2001年宇宙の旅』を題材に — 柴原 有生
 — 英語のアイロニーとジョーク 少路 菜月
 — 語用論的研究 —
 一、 A Christmas Carol における語りの脱線の意味 新庄 咲弥
 — 語りと落ち —
 — 日米漫画比較 — 進 優太
 一、 Mary Poppins から見るイギリスの教育観 平 真麻
 一、 Fools Gold 豊彦
 — A study of the connection between pop
 music and the cities in Britain — 高木 豊彦
 — 気象の日英メタファー — 瀧川 彩芽
 — 心理的表現への拡張 —
 — 英語教育が担う役割の変化と今後の課題について — 竹内香穂里
 — 教科書 NEW HORIZON を例に —
 一、 Oliver Twist における悪 関係において — 武村 桃花
 — ヴィクトリア朝の社会構造との
 関係において —
 一、 トルーマン・カポーティの『ティファニーで朝食
 を』における人種観とジェンダー観について 田中 元樹
 一、 Tess of the d'Urbervilles における太陽のもつ意味
 — 「宇宙の内在意志」との関係において — 田中 秀磨

- 一、 英語のジョーク
- 一、 語用論的観点からの一考察 — 田中 拓実
- 一、 イギリス文学におけるスペイン文化・歴史の影響 — 田中 光
- 一、 ペットの名づけ — 田中 莉子
- 日英の歴史から —
- 一、 *Alice's Adventures in Wonderland* における挿絵の効果 — 土田 弓月
- 一、 Human Values — 手島 穂南
- Class Society Of Britain And Japan —
- 一、 身体部位の比喩表現 — 寺田 里和
- 日英比較 —
- 一、 LGBTQ problems and rights — 戸田 彩水
- Comparing Japan and the USA —
- 一、 The Transition of Native American lifestyle — 豊留 菜摘
- 一、 スポーツのメタファー表現 — 仲 諒
- 野球を例に —
- 一、 時計じかけのオレンジから考える人権の在り方 — 中井宗一郎
- 一、 ジェーン・エア — 中嶋 穂香
- 字幕翻訳と吹替翻訳 —
- ハリウッド映画を例に —
- 一、 *Frankenstein* における怪物の正体 — 西村 未旺
- The Light and the Shadow — 野田 乃愛
- Royal Families and the Media in Britain and Japan —
- 一、 英語のイデオロム — 野町 穂香
- スポーツ由来の表現を例に —
- 一、 ヘンリー・デイヴィッド・ソローの『森の生活』における人間の本質的理解 — 長谷川 快
- 一、 Cheerleading in the USA — 濱口菜々香
- 一、 *Silas Marner* における母性 — 早川くるみ
- 一、 エドガー・アラン・ポーの小説「モルグ街の殺人」について —
- 推理小説の原点としての研究 — 原田 拓実
- 一、 Immigration in the United States — 平岡 梨沙
- The U.S. Immigration and Customs Enforcement —
- 一、 ルイーザ・メイ・オルコットの『若草物語』における女性に関する問題について — 廣田 あみ
- 一、 The Gun Issue in America: Problems and Solutions — 福田 千紘
- 一、 *Harry Potter* にみるイギリスの文化 — 藤井 陽菜
- *Jane Eyre* における Jane の自立 — 藤原菜七香
- 経済的観点から —
- 一、 Jim Crow Law — 藤村 祐未
- The System in Southern States —
- 一、 日米のスラング —

- 史的变化を中心に—
- 1' *Lord of the Flies* における悪 細谷 沙永
- 1' How the Image of African Americans was Created in America 松岡 志歩
- 1' *British fashion culture* 松田 裕希
- 1' 『クリスマス・キャロル』からの学び 砂子 彩羅
- 1' *Pythonesque* 水野 未都
- Monty Python and British Comedy — 武藤 梨奈
- 1' 英語童話のオノマトペ 山尾 天乃
- 邦訳の視点から—
- 1' オノマトペの日英翻訳 山口 菜月
- 漫画を例に—
- 1' 対人関係とポライトネス 山崎 美菜
- 映画 *My Intern* を例に—
- 1' Status Symbol 山崎 美菜
- The Decline of Service in Britain —
- 1' *Immigration and Economic Disparity in the USA* 山下 采花
- N・H・クラインバウムの『いまを生きている』 山中 勇輝
- から学ぶ思春期のあり方 山本菜々子
- 1' *The Information War* 山本 裕貴
- *The Difference Between British and Japanese Newspapers* —

- 1' New Jim Crow Systems in the United States Today 吉田 侑生
 - 1' Discrimination against African Americans by Police Officers 箕田 夏芽
 - 1' 日英翻訳にみる比喩表現 渡邊 涼香
 - 村上春樹の小説を例に—
 - 1' *Jane Eyre* における Jane の自立 中川 若奈
 - 抑圧からの脱却—
 - 1' *melts* と「溶ける」 西元 桃香
 - 多義とメタファー—
- 二〇二一年度文学部
卒業論文題目（九月卒業）

○真宗学科

- 1' 親鸞と『観無量寿経』 末岡 真熙
- 1' 真宗における真俗二諦の形成について 中島 範親
- 1' 親鸞における還相回向の一考察 大江 智教

○仏教学科

- 1' 律蔵からみる僧の食 楠 慈仁
- 1' 仏教における悪魔について 後東 了悟

○哲学科教育学専攻

- 1' 自尊感情の高さと親から褒められた・叱られた経験の想起の関連

— 小学校高学年時と現在（大学生時）の比較 —

丸山 雄大

○臨床心理学科

一、計算する能力に凹凸をもつ人の日常生活における

困り感について

日名 理夢

○歴史学科日本史学専攻

一、今川氏の対外交渉と文化交流

— 公家とのつながりを中心に —

吉田 奨

一、「人斬り」たちの幕末維新

— 政治的・思想的背景に注目して —

田伏 優真

○歴史学科東洋史学専攻

一、変容するイナンナ女神

— オスマン帝国内外のナシヨナリズムへの考察 —

長野 修平

— ズィヤ・ギョカルプとユスフ・アクチュラを比較して —

田中 裕也

一、漢代における地方行政の在り方

中居 晶央

○歴史学科仏教史学専攻

一、推古朝の仏教と政策について

一、ラーマ4世、5世によるタイ仏教改革と近代化

長尾那奈子
吉田 慶太

○文化遺産学専攻

一、弥生時代の戦いについて

古賀 礼華

○英語英米文学科

一、泉鏡花とポー

相原 由季

— 「黒猫」をめぐって —

一、アメリカ黒人の英語と文化

高田 廉

一、エドガー・アラン・ポーの短編小説について

杉山倫太郎

二〇二一年度短期大学部

卒業論文題目

一、社会福祉法人による地域公益活動の取組みについて

岡田涼太郎

一、高齢化社会による問題

— 高齢者の暮らしやすい街とは —

愛須 茉莉

一、深刻化する児童虐待と児童相談所の現状について

明石 竜成

一、児童虐待と見なされる現象

穂山 静月

一、うつ病の治療法・対策

— うつ病からの社会復帰に向けて —

浅田 裕也

一、高齢者世帯の老々介護におけるリスク対策

— 安心・安全を求めて —

安藤 聡美

一、視覚障害の観点からみた社会での工夫

一、「国内外から見ると子どものいじめ」

安藤はるな
飯田 佑音

一、発声予防の観点から考える虐待

一、我が国における高齢者デイサービスセンターの現状と今後の在り方

池田 愛弓

一、認知症患者に対する音楽療法の効果と現状

石田萌衣子

糸谷 知瞭

稲家 颯

- 一、児童虐待の現状と加害者の被害者性
- 一、今後の日本の「こ」教育における課題への取組

―「誰一人取り残さない」教育の実現へ―

伊野 涼雅

岩崎 峻士

- 一、スポーツがもたらす高齢者への影響力
- 一、男女平等な社会にするために

―アイスランドと比較して―

岩本 由海

宇井 彩子

- 一、介護施設における理想的な看取りとは
- 一、動物と福祉について
- 一、不登校要因の変遷とフリースクールの意義について

上田龍太郎

- 一、発達障害学生への大学における合理的配慮の現状と課題

浦邊 知佳

- 一、発達障害者の就労支援と支援体制について

榎本 千華

大岡 雄登

- 一、福祉の現場を助ける機会や装置
- 一、多文化共生社会の現状と課題

大村 惟人

岡本 雄輝

- 一、ゲーム依存と子どもの将来
- 一、育児におけるSNSの利用

小川 志栄

加藤 稚葉

- 一、児童虐待の今後の課題と求められる支援
- 一、障がい者スポーツの意義と効果について

川上 風花

―パワーハラスメントについて考える―

北野 晴稀

- 一、処方薬依存症患者とその家族に対する社会的支援のあり方

久保 華音

- 一、高齢者虐待における養護者支援について

黒川 泰平

- 一、安楽死の必要性について
- 一、ベシックインカムによる生活保障とは

兄玉 掌

- 一、ワーキングプアへの期待と効果

小森 明

- 一、児童養護施設での自由な進路決定のために

近藤 隼人

- 一、ホームレスに対する福祉サービスの課題と現状

坂本 光

- 一、障害者スポーツについて
- 一、中高年ひきこもりの支援の在り方に関する一考察

先間 直樹

- 一、障害者スポーツと企業
- ―企業が障害者スポーツに関わるメリット―

櫻井 裕基

- 一、一橋大学の事例から考えるLGBTの人の差別と人権

笹嶋 綾

- 一、コロナ渦の中で自然災害が起きたときの福祉への影響と対応策

左部 来夢

- 一、児童虐待から子どもを守るための方法

佐本 隆哉

- 一、認知症患者に対する理解と共生社会への実現

- 一、ハラスメントによる現状と影響

川上 風花

- 一、 尊厳死の認識の差異に関する研究
 - 下羽根亜美
- 一、 世界の貧困
 - 瀧尾 匠汰
- 一、 地域ごとの差異
 - 田代 良太
- 一、 音楽療法の有効性と今後の課題
 - 堤 莉佳
- 一、 デイズニー映画から見る黒人差別
 - 豊島 昇太
- 一、 高齢者の孤食と健康
 - 人生100年時代を考える —
 - 中西 香乃
- 一、 いじめの現状
 - 中西 恵三
- 一、 日本の貧困について
 - デンマークと比較して考える —
 - 中西 研登
- 一、 CMCコミュニケーションにおける非言語情報の必要性
 - 永尾 彩
- 一、 音楽による感情操作と好まれる楽曲
 - 西田 和叶
- 一、 ヤングケアラーのために社会がすべきこと
 - 二宮 愛
- 一、 人口過疎地における現状と地域活性化に向けた取り組み
 - 野原 由伸
- 一、 日本での出生前診断の受診
 - ソーシャルワーカーとの繋がり —
 - 朴 舜華
- 一、 社会福祉施設のICT化の実態と今後の課題について
 - 高齢者施設の現状と課題 —
 - 東出 陸来
- 一、 日本と世界の生活保護制度
 - 日野 泰雅
- 一、 発達障害の特性に対応するための介助者のコミュニケーションスキル

- テレビアニメサザエさんによる一考察 —
- 一、 子どもの貧困の現状と課題
 - 深美 晴菜
- 一、 障害者スポーツの歴史・現状とその課題
 - 福罵 桃萌
- 一、 日本人の世代間ごとの死生観
 - 藤 朱音
- 一、 次の時代における学習形態について
 - 藤井 行子
- 一、 児童虐待が及ぼす子どもへの影響と虐待防止への取り組み
 - 藤原 泰樹
- 一、 孤独死の現状と課題について
 - 星野 桃花
- 一、 障害者スポーツへの正しい理解を深めるには
 - 本田 千陽
- 一、 高齢者介護施設でのヒヤリハットの現状と課題
 - 俣野ひまり
- 一、 認知症における生活上の課題と対策
 - 家族の負担と影響 —
 - 松内 清海
- 一、 いじめ問題について
 - 児童生徒をいじめから守るためには何が必要か —
 - 松村 拓実
- 一、 児童養護施設における自立支援の現状
 - アフターケアの実態と課題 —
 - 松本 純伶
- 一、 新型コロナウイルス感染症流行における高齢者への身体的・精神的影響とその対策
 - パラリンピックについて興味・関心を持つためにはどのような社会にしていくべきか
 - どのような社会に在り方
 - 万井 梨乃
- 一、 日本における安楽死制度の在り方
 - 南 美慧

一、少子化の原因となる子育て不安の軽減について

宮崎 楓菜

一、児童虐待における虐待者への支援

向 香澄

一、ヤングケアラーの現状と課題解決に向けての一考察

森本 麗奈

一、ヤングケアラーの現状と課題

守屋 沙都

一、高齢者の終末介護に関する「死」について

矢作 崇仁

一、コロナ禍でのひきこもり支援の現状について

山品 優梨

一、現代日本における宗教とターミナルケアとの関係

山本那津子

一、K-POPアイドルが切り拓くジェンダーレスの可能性

湯口 亜湖

一、里親養育における里親実子への影響

吉岡 麻尋

一、日本で働く外国人労働者問題

— 今後のアプローチの方向性について考える —

吉田 透馬

二〇二一年度龍谷学会

学術講演セミナー活動報告

中西竜也（京都大学人文科学研究所准教授）

〔龍谷史学会担当〕

臨床心理学学術講演セミナー

村瀬敏則（京都府総合教育センター部長）

〔臨床心理学科担当〕

○六月四日（金）

像が来た道

小松原ゆり（明治大学文学部兼任講師）

〔歴史学科東洋史学専攻担当〕

○六月十八日（金）

平安京の都市民と祭り

久米舞子先生（龍谷大学文学部非常勤講師）

〔歴史学科日本史学専攻担当〕

○七月十四日（水）

世界遺産登録と百舌鳥・古市古墳群

一瀬和夫（京都橘大学教授）

〔歴史学科文化遺産学専攻担当〕

○十一月九日（火）

浄土真宗と妙好人

林智康（龍谷大学名誉教授）

〔真宗学科担当〕

○十一月十二日（金）

出土金属製品の保存処理の現状と課題

山田卓司（龍谷大学文学部歴史学科文化遺産学専攻講師）

攻講師）

○六月一日（火）

中国ムスリム研究の魅力と課題

昭和前期の仏教とアジアの戦争

大澤広嗣（文化庁宗教課専門職）

〔龍谷史学会担当〕

○十一月十九日（金）

地方档案史料から見る清代中国の基層社会

水越知（関西学院大学文学部教授）

〔歴史学科東洋史学専攻担当〕

龍谷学会役員

会長 長玉木興慈

編集委員

村岡倫

(編集主任)
(庶務主任)
(庶務)

水尾文子

鍋島直樹

能仁正顕

小林徹

林美輝

吉川悟

山本浩樹

市川良文

國下多美樹

内田智子

佐々木大悟

学会事務

福田基

小池翔平

木村瑠里

編集後記

『龍谷大学論集』第四九九號をお届けいたします。本號には、八本の論考を掲載することができました。ご執筆いただきました各位、そして編集その他にご尽力をいただきました多くの方々に、心より厚く御礼申し上げます。世のウイズ・コロナの趨勢に伴って、研究において少しずつではありますが、様々な面での状況に戻りつつあるようです。しかし、昨年起こったロシアによるウクライナ侵攻が世界に暗い影を落とし、長引く戦争は日本にとっても決して対岸の火事ではなく、コロナ禍以上に悪影響を及ぼしています。

昨年二〇二二年七月に急逝された文学部歴史学科仏教史学専攻の畏友、林行夫教授は東南アジア仏教史の専門家でしたが、冷戦体制中の1980年代、タイとラオス間の緊張が続く国境域で、「人は愛しあえるのに国はそれができない」という住民の嘆きを聞いたと話してくれたことがあり、心に残っています。人文学研究は、人々の分断の不毛さ、人と人の絆と共生の重要性を説くのが使命の一つであるかと思っています。このような世情だからこそ、おおいに研鑽を積む必要があるのではないのでしょうか。

今後も龍谷学会にご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(村岡 倫)

龍谷大学論集
No. 499

龍谷学会
村岡倫

株式会社 図書印刷 同朋舎

京都市中京区西ノ京馬代町6-16
電話 (205) 55006番

龍谷学会

京都市下京区七条大宮 龍谷大学内
郵便番号 600-8268 電話 (343) 3311番
e-mail:gakkai@ad.ryukoku.ac.jp
振替口座 01020-6-5208番

令和5年3月3日 印刷
令和5年3月9日 発行

編集者

印刷所

発行所

龍谷学会規程

昭和 年 月 日

改正 昭和三十八年六月日

令和元年十二月十一日

令和四年九月九日

第一条 本会は、龍谷学会と称し、事務所を龍谷大学内におく。

第二条 本会は、仏教学、哲学、史学、文学、心理学など人文社会諸学の研究の促進並びにその発表を目的とする。

第三条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

一、「龍谷大学論集」の発行

二、講演会、研究会

三、本会と関係する学内学会の補助

四、その他、本会にふさわしい事業

第四条 本会は、次の会員をもって組織する。

一、普通会员

龍谷大学文学部、心理学部及び短期大学部に所属する専任教職員

二、学生会員

龍谷大学文学部、心理学部、短期大学部、大学院文学研究科及び大学院実践真宗学研究科の学籍を有する学生

三、賛助会員

本会の趣旨に賛同するもの

第五条 本会に評議員会をおく。

二、評議員会は、全普通会员をもって構成する。

三、評議員会は、第3条所定の事業遂行に必要な重要事項を協議決定する。

第六条 本会に次の役員をおく。

一、名誉会長 一名

二、会長 長 一名

三、委員 若干名

第七条 役員の選出及び任期は、次のとおりとする。

一、名誉会長は、龍谷大学長これに就く。

二、会長は、龍谷大学文学部長これに任じ、本会の業務を統理する。

三、委員は、龍谷大学教職員会中より会長これを委嘱し、任期を二年とする。ただし、再任を妨げない。

第八条 本会の経費は、会員の入会金、会費、龍谷大学からの助成寄付金等をもってこれを支弁する。会費に関して

は別にこれを定める。

第九条 本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり三月三十一日に終わる。

第十条 本会の現金出納は、龍谷大学財務部経理課に委託する。

第十一条 本規程の更改には、評議員会において、出席者三分の二以上の賛同を要する。

付則 この規程は、昭和三十七年四月一日より施行する。

付則 (昭和三十八年六月 日第五条、第六条改正)

この規程は、昭和 年 月から施行する。

付則 (令和元年十二月十一日第二条、第十一条改正)

この規程は、令和元年十二月十一日から施行する。

付則 (令和四年九月九日第二条、第四条一部改正)

この規程は、令和五年四月一日から施行する。

龍谷学学生会費納入規程

付則（昭和五十二年四月一日より一部改定）
付則（昭和五十九年四月一日より一部改定）
付則（平成十九年四月一日より一部改定）
付則（令和三年十月一日より一部改定）
付則（令和五年四月一日より一部改定）

昭和三十七年四月一日
一部改正
昭和三十九年四月一日
一部改正
昭和四十九年四月一日
一部改正
昭和五十二年四月一日
一部改正
昭和五十九年四月一日
一部改正
平成十九年四月一日
一部改正
令和三年十月一日
一部改正
令和五年四月一日
一部改正

第一条

本会会員の会費はすべて年額三千円とし、半期ごとに一千五百円ずつ、毎年度四月及び九月に納入する。ただし、休学中は当該期間の会費納入を免除される。

第二条

普通会員は入学に際して入会金二千円を納める。

第三条

本学短期大学部より本学文学部又は心理学部の三回生に編入する者は、入会金の納入を不要とする。

第四条

本学文学部又は心理学部より本学大学院文学研究科又は実践真宗研究科へ入学する者も、入会金の納付は不要とする。

第五条

本会の会費は、龍谷大学財務部に納入するものとする。すでに納入した入会金並びに会費は、如何なる事情があつても返済しない。

第六条

あつても返済しない。

第七条

本規程は昭和三十七年四月一日より施行する。

付則（昭和三十九年四月一日より一部改定）

付則（昭和四十九年四月一日より一部改定）

2021(令和3)年度 龍谷学会収支決算 (2022. 3. 31)

2021(令和3)年4月1日~2022(令和4)年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	内 容	予算額	決算額	増減額
入会金及び 単年度会費	龍谷学会学生会費	14,076,500	14,076,500	0
雑 収 入	雑 収 入	285	285	0
繰 越 金	前 年 度 繰 越 金	44,811,649	44,811,649	0
合 計		58,888,434	58,888,434	0

支出の部

(単位:円)

科 目	内 容	予算額	決算額	増減額
事 業 費	学 会 誌 印 刷 費	18,000,000	2,536,314	15,463,686
	叢 書 印 刷 費	11,000,000	2,993,760	8,006,240
	学術講演セミナー等費	3,600,000	550,616	3,049,384
	学 術 出 版 等 費	3,600,000	2,350,770	1,249,230
	発 送 費	2,500,000	60,430	2,439,570
	通 信 ・ 交 通 費	120,000	9,000	111,000
予 備 費	予 備 費	1,049,120	2,000	1,047,120
繰 越 金	次 年 度 繰 越 金	12,188,434	50,385,544	-38,197,110
合 計		58,888,434	58,888,434	0